

Tokyo International Gallery

Solo Exhibition

# Threshold of Emergence

*Exhibition Period* : 2026. 9. 9. Wed. – 10. 24. Sat.

*Opening Reception* : 2026. 9. 9. Wed. 18:00 – 21:00



Threshold of Emergence

高屋永遠 Towa Takaya

## Tokyo International Gallery、高屋永遠による個展 「Threshold of Emergence」を開催

株式会社 Tokyo International Gallery（品川・天王洲）では、2026年9月9日（水）から10月24日（土）まで、高屋 永遠による個展「Threshold of Emergence」を開催いたします。

精妙な色彩、複雑なマチエール、ゆらめくような独特の奥行き—高屋の絵画を構成するこうした特徴は、市販の絵の具や顔料にとどまらず、偏光パールや金属、CO<sub>2</sub>由来ポリマーといった特殊な光学的性質を持つ素材や、土・灰・鉱物など特定の土地に由来する素材から自作された色材を通じて実現されています。

多様な素材を重ね合わせるこうした実践の根底には、世界を、自らの外側に独立して存在するものとしてではなく、身体と諸事物が互いに干渉し合うなかで、経験として立ち上がるものとして捉える視座があり、本展もまた、その延長線上に位置付けられます。

そうした視座はとりわけ、多様な物質を素材として扱うようになって以降、より具体的な問いへと深まっています。近年、高屋の関心は、色彩そのものの表現から、色彩を生じさせる物質の振る舞いへと移行してきました。光、環境、視点、身体との関係のなかで、物質がいかに異なる相を現し、見る経験を変容させるのかが、現在の制作における中心的な問いとなっています。

イメージが固定されたものではなく、その都度異なる仕方で生成する現象である以上、鑑賞者の身体もまた、イメージ=世界が生起する場の一部を成しています。作品の前に身体を置き、見る位置を変え、環境に身を委ねること—そうした経験は、この場においてのみ開かれるものです。Tokyo International Galleryの光と空間、身体、物質—これらが関わり合う中でどのような世界が立ち現れてくるのか—会場にてぜひご高覧ください。

## = Exhibition Statement =

散逸構造は、まったく異なる秩序形成の原理、すなわち「揺らぎを通した秩序」に結びついている。

— イリヤ・プリゴジン

現象は、意味に先立って存在する対象ではなく、強度配分、環境条件、時間的变化、そして知覚する身体との関係によって、その都度構成される相互作用の場である。

本展が見つめるのは、その場が安定した像や意味へと回収される以前に生じる、微細な転位の過程である。ある作用が別の作用へ、ある秩序が別の秩序へ、ある価値がその反対物へと反転していくとき、現象はもはや単一の性質によって把握されることを拒む。

そこでは、親しいものが不穏な徴候を帯び、穏やかな気配が制御しがたい力へと変質し、破壊的に見えるものが再び生成の条件として立ち上がる。しかしその反転は、劇的な断絶としてではなく、濃度、痕跡、粒子、光、視点のずれといった、ほとんど知覚の周縁において生じる。

本展における閾値とは、単なる境界ではない。それは、意味が成立する直前、あるいは崩れた意味が別の秩序へと再編される途上に現れる、臨界的な場所である。

本展は、その臨界に立ち会う試みである。

高屋 永遠



## ARTIST PROFILE

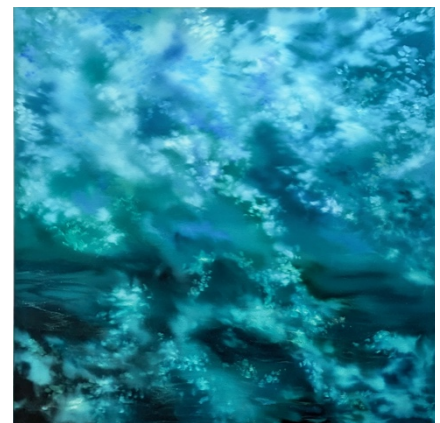
### 高屋 永遠 | Towa Takaya

1992年東京都生まれ、東京拠点。光学現象と素材の探究を軸に、絵画表現を光・物質・空間に生起する現象として展開する。化粧品原料、土、鉱物、CO<sub>2</sub>活用素材などを用い、素材の物理的特性や土地の記憶が光・視点・環境によって変容する視覚経験を立ち上げる。2022年より資生堂みらい開発研究所と共同研究を実施。主な個展に、「あるいは、私でないような」（デザインフェスタギャラリー、2014年）、「It calls: shades of innocence」（Lurf Gallery、2024年）、「無限の形象」（銀座三越ギャラリー、2025年）、「真空の輪郭」（鎌倉画廊、2025年）、「re: materiality」（hakari contemporary、2025年）など。ART FAIR TOKYO、Tokyo Gendai、日本国際芸術祭（関西万博）など国内外のアートフェアに出展。



公式 Web サイト：<https://towatakaya.com/>

Instagram：<https://www.instagram.com/towatakaya>



## &lt;BIOGRAPHY&gt;

- 1992 東京都に生まれる
- 2012 ロンドン芸術大学 セントラル・セント・マーティンズ ファウンデーション 修了
- 2015 ロンドン大学 ゴールドスミス・カレッジ美術学科 卒業
- 2017 東京大学空間情報センター 協力研究員

## &lt;EXHIBITIONS&gt;

## 【個展】（2023 年以降）

- 2023 「JOY AFTER ALL—花信風」 (Lurf Gallery、東京)
- 2023 研究成果展「揺動する絵画空間—化粧品原料を用いた表現の研究」  
(資生堂グローバルイノベーションセンター、神奈川)
- 2024 「It calls: shades of innocence」 (Lurf Gallery、東京)
- 2025 「無限の形象」 (銀座三越、東京)
- 2025 「雨粒は花となり、宙に舞うまで」 (Lurf Gallery、東京)
- 2025 「象—有と生と無」 (ASTER Curator Museum、石川)
- 2025 「re: materiality」 (hakari contemporary、京都)
- 2025 「真空の輪郭」 (鎌倉画廊、神奈川)
- 2026 「桜時」 (阪急メンズ館アートギャラリー、大阪)
- 2026 「移ろいゆくもののなかで」 (銀座三越、東京)

## 【グループ展】

- 2016 「On the Threshold II: Formal Presence」 (オリエンタル・ミュージアム、英国・ダラム)
- 2022 「diverse paintings」 (西武渋谷、東京)
- 2023 「Chroma Distance」 (ポーラ ミュージアム アネックス、東京)
- 2024 「Redcar Summer Exhibition 2024」  
(レッドカー・コンテンポラリー・アート・ギャラリー、英国・レッドカー)
- 2024 「Summer 2024」 (鎌倉画廊、神奈川)
- 2026 「Winter 2026」 (鎌倉画廊、神奈川)

## &lt;OTHERS&gt;

- 2019 ART FAIR TOKYO 2019 (東京国際フォーラム、東京)
- 2022 資生堂みらい開発研究所との共同研究開始 (化粧原料による光学表現の研究)
- 2023 資生堂みらい開発研究所との共同研究成果展「揺動する絵画空間」 (横浜 S/PARK、横浜)
- 2024 Tokyo Gendai (パシフィコ横浜、神奈川)

- 2024 Kiaf SEOUL (COEX、ソウル)
- 2024 Art Fair Beppu 2024 (別府国際観光港、大分)
- 2024 第2回日本国際芸術祭「未来を創る U35」展 (御寺泉涌寺舍利殿、京都)
- 2024 《花信風》展示 (某所 [官公庁] 展示企画: Art Place inc.)
- 2025 山脇竹生・高屋永遠共著論文「絵画技法の画種横断的な分類」出版、芸術科学学会
- 2025 ART FAIR TOKYO 2025 (東京国際フォーラム、東京)
- 2025 第3回日本国際芸術祭「流転と無限」 (関西万博・夢洲、大阪)
- 2025 Tokyo Gendai (パシフィコ横浜、神奈川)
- 2025 Art Fair Beppu 2025 (別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ、大分)
- 2026 高等学校用国語教科書装画を担当。明治書院出版『新精選 現代の国語』『新精選 言語文化』  
立命館アジア太平洋大学をはじめ、企業コレクション多数。

#### 企業・研究連携

2022年より資生堂みらい開発研究所と共同研究を実施。化粧原料の光学的特性を応用した絵画表現を開発し、資生堂グローバルイノベーションセンター (S/PARK) にて研究成果展「揺動する絵画空間」を発表。CO<sub>2</sub>由来ポリマーを用いた新しい環境美術表現の研究・制作を進めている。新作シリーズ「Morphology of Breath — 呼吸の形態学」では、人間と環境の循環性を、素材の光学的ふるまいとして可視化している。

2025年、日本の時計ブランド MINASE との協働により、見る角度と環境光によって色彩が変化する「悠彩」文字盤を制作。

現在は、CO<sub>2</sub>由来ポリマーや、大分県別府市、石川県珠洲市などでの滞在政策を通して日本固有の土といった環境配慮型素材を用い、環境と人の循環性を可視化する環境美術の研究・制作を行っている。

#### <AWARD>

2009 第83回国展 入選 (国立新美術館、東京)

---

**= Artist Statement =**

私は、絵画を固定された像の表現としてではなく、光、物質、身体、環境の関係のなかで知覚が生成される場として捉えている。作品は一つのイメージを提示するのではなく、見る角度や距離、光の状態によって絶えず表情を変え、その都度異なる現象として立ち現れる。粒子は光と干渉し、像は定着することなく揺らぎ続ける。そこでは、「見る」という行為そのものが静かに問い直されている。

近年は、能登で採取した土や砂、珠洲焼の灰、鋳物など、土地の時間を含んだ素材を用いながら、偏光パールや金属素材といった光学的特性を持つ物質を重ね合わせて制作している。表面は湿度や光を受けて微細に変化し、近づけば像は崩れ、離れることで再び立ち上がる。私の関心は、「主体が世界を認識し、表象する」という構造ではなく、世界が現れる条件を静かに調律し、主体を環境のなかへ再配置することにある。

作品は、一つの答えを示すためのものではなく、未だ定まりきらない場所として存在している。固定された視覚から離れ、知覚そのものが更新されていくような、新たな可能性を探っている。

**■ 開催概要**

- ・タイトル : Threshold of Emergence
- ・出展作家 : 高屋 永遠
- ・会場 : Tokyo International Gallery
- ・住所 : 東京都品川区東品川 1-32-8 TERRADA ART COMPLEX II 2F
- ・開催期間 : 2026年9月9日(水) - 2026年10月24日(土)
- ・時間 : 10:00 - 19:00
- ・休廊日 : 日曜、月曜、祝日(火曜日は事前予約制)

**■ オープニングレセプション**

- ・日時 : 2026年9月9日(水) 18:00 - 21:00 ※予約不要・入場無料
- ・会場 : Tokyo International Gallery

**【 お問合せ先 】**

株式会社Tokyo International Gallery

代表取締役 島村航介

[info@tokyointernationalgallery.co.jp](mailto:info@tokyointernationalgallery.co.jp)